

令和3年度第1回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

日 時 令和3年7月15日(木) 10時00分～11時30分

場 所 平塚市役所本館7階720会議室

出席者

○ 委員10名

岩本委員、大田委員、野口委員、今村委員、小川委員、石橋委員、井上委員、平林委員、富岡委員、島本委員

欠席2名：小宮山委員、松下委員

○ 事務局7名

岩崎福祉部長、久保地域包括ケア推進課長、大川高齢福祉課高齢者相談支援担当長、笹井介護予防担当長、相原医療・介護連携推進担当長、日高主査、大関主査

○ オブザーバー2名

地域包括支援センターおおすみ 北村管理者、地域包括支援センター倉田会 水嶋管理者

開 会

- 1 委嘱状交付
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 議題

<以下、進行は今村会長>

議事に入る前の報告事項

平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により、定足数である過半数の委員の出席を得て、成立いたしております。また、この運営協議会は平塚市情報公開条例第31条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は0名。

議題(1) 令和2年度地域包括支援センター活動報告等について

<事務局>

資料1に基づき、地域包括支援センターの概要及び活動報告について、説明を行った。

意見・質問

<委員>

相談内容件数のところで、「精神疾患(疑い)」とあるが、こちらも結構な件数がある。具体的にはどのようなものになるのか。

<事務局>

「精神疾患(疑い)」の内容ということで、こちらは「認知症」ではなく、「精神障害」とうことで分けさせて頂いている。

<委員>

(精神障害の相談は)結構多いのか。高齢者の精神障害ということか。

<会長> 具体的なものを次回までをお願いします。他に(質問等は)ありますか。

<委員>

色々な資料、数字ばかりだが、数字より内容が気になる。例えば虐待でも具体的なことが知りたい。

<事務局>

先ほどの精神疾患の内容もそうだが、数字で表れていることに対して、どう言う風にしてきたか、どうとらえるか、どう今後していくかは、次の議題で各包括支援センターが計画を立てているので、そこで細かく「こういうことについてはこうしていく」など、数字と絡めて計画の中でどんな風にしていくかを御説明出来ればと思う。全体を説明した後でまた御不明な点はお示ししていければと思う。

<委員>

数値を出すというのは大変なことだと思う。それだけ労力や時間を費やすのはいかなものかと思う。

<事務局>

色々な視点から見ている、数値の面からも見ているというのは一つの材料なので、全体像で捉えていただければと思う。

<委員>

皆様に御納得いただくのに、感覚でどうだという訳にはいかないもので、そのために行政が数字を出している。

<事務局>

今回お示ししている地域包括支援センターの相談内容は多岐に渡るため、「どんな相談が多いの」というのを数字化したものがこちらの資料になる。

<委員>

全体の傾向を掴むのには必要だと思う。各包括支援センターがまとめているのが煩雑で大変であれば変える必要はあると思うが、定例的にうまくできているのであればよいと思う。

<委員>

資料の中の「地域活動、会議開催・出席状況」のところで、「地域組織支援」が、元年度の18%ぐらいになってしまったという報告を受けたが、各包括支援センターの決算書に「広報費」というのがある。「(包括支援センター)あさひきた」だと、予算のないところに大きく決算で入っているところもあれば、片や「ゼロ」のところもある。これは各包括支援センターの裁量に任せているところなのか、地域性なのか。

<事務局>

広報費であれば、新たに何かを作って予算を使っているところもあれば、元々広報費ではなく、印刷代として出しているところもあるので、広報費が「0」だからと言って何もして

いないということではない。

<委員>

これは、法人が出している収支決算書と同じものか。

<事務局>

今回は、地域包括支援センターの委託費と認知症地域支援推進員の委託費の内訳を主に出していただいている。介護保険収入などもあるが、こちらから必ず入れてくださいと言っていないため、法人（全体）の収支決算書とは同じものではない。

<委員>

赤（マイナス）があるが、そのあたりの扱いというか指導はどうか。一時的なものなのか、どうか。

<事務局>

収支がマイナスになってしまっている部分については、いつもマイナスになってしまっているところもあるが、昨年だけというところもある。要因として「これが」、というのはないが、マイナスになってしまっているところについては、毎年施設長会議というものをやっているの、そこで御意見等をいただき、改善できるところは改善していきたい。

<委員>

収支決算書の（包括支援センター）サンレジデンス湘南の支出のところ、運営委託費があるが、予算に対して決算が大分多くなっていてマイナスになっているが、これは具体的にどのような業務を委託されているのか。

<事務局>

こちらから委託している費用としては、人件費と事務費をお支払いしているが、（包括支援センター）サンレジデンス湘南の事業委託費の詳細については調べてからお答えさせていただく。

<委員>

人件費は例えばサンレジデンス湘南は、予算では3名になっているが、決算では9名になっている。こういうところを個々に見ると考えさせられるところがある。予算書については、どのように作成しているのか、前年度と違いすぎるのは本当にそれでいいのかとってしまう。

<委員>

9名になった分、業務委託費がぐっと減っているのであれば、これまで3名ではかかえきれなくて外に委託していたから、9名に増やして業務委託費を絞ろうということだったらまだ数字から読み取れるが、これでは分からない。

<委員>

予算書も含めて事業委託をまとめているところが責任を持って指導しているのか、ただ単に地域包括支援センターに色々な業務を委託しているその業務内容とか地域の問題がどうかということを見ているのかどうか、運営する上で財政面を含めて指導することがあれば、それなりにこの予算書も決算書も見なければいけないと思う。

<事務局>

こちらからお支払いしている業務運営委託料だが、包括支援センターには、主任ケアマネジャーと社会福祉士と保健師もしくは経験のある看護師の3名と認知症地域支援推進員、こちらが各1名いる。その分の人件費と事務費をお支払いしているので、職員が増えたからと言ってその分を上乗せでお支払いしている訳ではない。なので、センターで新たに増員しました、という場合には、センターで負担していただくということになっている。

<委員>

マイナスが出ている予算書に違和感がある。それにマイナスが出ている事業を真面目にやっているのかと思われてしまう。そういう印象を持たれるのは危険のような気がする。

<事務局>

本来委託料の他に、介護保険料収入なども包括支援センターに入ってくる。その分を見込んで支出として計上されているため、マイナスということが発生してしまっていると思う。本来業務委託料としての支出なので、その分を除いていかないといけないと思っている。

<委員>

予算書には、介護保険収入分と委託料が載っているところと載っていないところがあり、決算書もそうなっているからバラツキがでているので、統一してもらおうとよいと思う。数字が出ていないところがあるから、余計分が少なくなっている。来年度は全部入れてもらって出してもらおうようにお願いします。

<事務局>

全てを揃えるようにする。

<委員>

人件費の人数が入っていないところはいくつかある。

<事務局>

こちらにつきましては、人数や全ての収支について全てのセンターで、統一的にずれのないように来年度は記載していただくようお願いしていく。

議題(2) 令和3年度地域包括支援センター事業計画について

<事務局>

資料2-1、2-2に基づき、各地域包括支援センターの事業実施に係る方針について説明を行い、その後、事業計画について説明した。

資料2-3に基づき、各包括支援センターの計画書の作りについて解説した。

<地域包括支援センターおおすみ>

まず前年度の取組について、新型コロナウイルスの影響のため、多くの包括主催の企画が中止せざるを得なかった。主に健康講座であったり、小中学校向け認知症サポーター養成講座であったりを毎年行っていたが中止せざるを得なかったが、包括の広報紙等を発行してコロナの感染対策や、フレイル予防の情報を発信した。また、大きなところでは、地域住民向けに「フレイルおたずねシート」というものを実施し、コロナ禍における心身の変化について聞き取りを行った。聞き取りの結果、外出機会が減ったりプレフレイルに陥っていたりといった状況が分かった、というのが前年度であり、これらを踏まえて今年度の事業計画とな

るが、コロナ感染状況を踏まえ、大人数を集めての講座というのは開催出来ない状況。しかしながら、ウィズコロナという状況での計画なので、昨年度と同様に広報紙を活用しての普及啓発活動に注力していきたい。具体的には、健康講座が出来ない代わりに、地域のサポート医に協力いただき、健康長寿に関する記事を寄稿していただき、地域住民の方へ回覧していく予定。あとは、昨年度実施した「フレイルおたずねシート」を踏まえ、フレイルの予防活動にも注力する必要があるということで、7月には岡崎地区で、10月には城島地区でフレイルチェック測定会を開催させていただく。また、各サロンや通いの場に出向き、出張フレイル講座を行う予定。今年度内にできるか分からないが、フレイルに関する地域住民の意識の高まりもあり、フレイルが気になる方の受け皿になるような教室を地域で作れるように地域関係者などに働きかけながら支援していきたい。

終活事業、エンディングノートの普及啓発について、民児協（民生委員児童委員協議会）や福祉村、地域サロンなどで講話を行っていく予定。

最後に、包括職員の研修だが、コロナ禍で研修に参加できないということもあるので、事業所としては、オンライン研修が受けられる環境を整え、動画視聴やZoom研修が受けられるようにした。

< 地域包括支援センター倉田会 >

前年度の取組に対して、サロンや教室は開催出来ていない。それに対して今年度どうしていこうかというところだが、（地域で）再開しているサロンもあるが、再開していないサロンなども多いため、少人数で行うサロンを新たに立ち上げていくことも含めて少人数で行えるサロン活動を行っていくという目標を掲げている。去年と変わらない状況だと（サロン活動などが）行えないということになってしまうので、そうならないように計画している。大きな議題として終活の事業について、問い合わせや講座の依頼などもあるので、地域住民の方々に御説明していきたい。

コロナ（ウイルスのまん延）で外出したくないという御高齢の方もいるので、出来る限り安心して参加していただけるよう教室やサロンを提供出来たらと考えている。

< 事務局 >

事務局から補足説明をさせていただく。今包括支援センターの職員から紹介があった「フレイルおたずねシート」について簡単に説明させていただくと、昨年第一回目の緊急事態宣言の後、2か月後ぐらいに、地域包括ケア推進課の専門職が、過去にフレイルチェック測定会などに参加された方に対して電話で聞き取りを行った。その結果、自粛生活で虚弱が進んでいるのが見えてきたことから、これはもう少し広く高齢者の方の状況を把握しなくてはいけないと考え、東京大学の監修の下、「フレイルおたずねシート」を平塚市独自に作成した。令和2年の9月から現在まで継続して（聞き取りして）使用しており、調査件数は553件となっている。具体的な内容としては、フレイル予防では「栄養・運動・社会参加」の3つの柱を三位一体としてバランスよく取り組むことが重要であるため、例えば食習慣、お口の周り衰え、さらには人との繋がりなどを調査するものであり、実際には、包括支援セ

ンターの職員がサロンや通いの場、個別相談時などで使用している。参考だが、調査結果で見えてきたこととして、「社会的フレイル」と呼ばれる、いわゆる人とのつながりの希薄化が挙げられ、男性は週1回以上誰かと会食するなどの機会がある方が多いが、女性はそうした機会が減っており、コロナ禍でさらに減少傾向にあることが見えてきた。社会的フレイルの予防はなかなか手立てがない中で、今年度から当課の事業でスマホの活用講座を始めた。スマホって便利ですよ、というのではなく、グループで話せたり、顔を見ながらやり取りできたりするアプリケーションを使うと、人との繋がりがもっと出来ますよ、という目的の講座である。それから「気持ちの落ち込み」について、男性の方が気持ちの落ち込みや物忘れの不安を抱えている割合が多いということが挙げられる。そのため、例えば男のための料理教室というものをやっているが、フレイルチェック測定会なども男性の参加者の方が少ないという状況もあるので、男性に対してどのように（アプローチ）していくのかというのは課題と考えている。

最後にオーラルフレイル、口の周りの衰えについて、特に女性が「むせ」を自覚している割合が高い。男女ともお口の状態が変化したという方が増えてきており、今年度のフレイルチェック測定会でも、お口の状態について注意が必要な方の急増がうかがえる。三位一体（栄養・運動・社会参加）の取組において、特に口の周りの健康維持に注力すべきであることがこの調査結果から見えてきたので、包括支援センターにも伝えながら進めていきたい。

意見・質問

<委員>

色々な取組をされていて、環境によって色々修正して行って非常に良いことだと思う。

計画書及び評価表の作成の流れについて思うのが、作成の流れで6番目（取組に対する全体評価（前期））の後には、課題とか課題に対する対応について、2（主な地域課題）と3（主な地域課題の改善策・解消策）を意識的に見直すべきだと思う。考え方が良かったかどうか若しくは新たな課題が出たなど見直して修正しながら後期をやるべきではないかと思う。

<事務局>

事業計画書の様式については、令和元年度に改良した際、今後さらに改良が必要な点があれば検討し対応していくと御説明しているが、今年度分については、年度途中であるため、運用の中で6番の後に2、3を考えて7（取組実績（年間））、8（取組に対する全体評価（年間））を行ってもらうなどアナウンスをしていかなければならないと思う。様式自体をどうしてかかは宿題として考える。

<委員>

今の御意見はアセスメントを入れていくという御意見だと思うが、評価のところは気になっていて、例えばこちらで出ている評価は、開催できたかとか、回数や参加数であり、それが出来ていれば出来たという評価になっているのかなと思うが、あくまでも目標があるので、どこまで達成できたのかをどうやって見るのかと思っている。成果をこういう風なことがあったらここまで達成できたというような、予め指標があった方がどこまで出来たっていうことがみんなで共有できるのかなと思うが如何か。

<事務局>

指標の設定については前回の様式改良時に考えたが、当時の様式は、前年度とのつながりや捉えた地域課題などの言語化や共有ができておらず、これらの改良を最優先とした。その後何度か今の様式を使っているのですが、指標の設定については包括支援センターの意見を聞きながら検討していきたい。使いづらくなるようだとはいけませんが、指標を設定したことでさらに使いやすくなるのであれば前向きに考えなくてはいけないと思っている。

<委員>

成果の指標ってどうやって立てるかはすごく難しいと思う。でもここまで達成できたらこれで何パーセント、目標に対してここまで来ているなというのが分かりやすくなるのではないかなと思う。評価指標は予め設定しておいて、もちろん後から設定していなかった新たなことも出てくるとは思うが、その後評価が出来ると思うので、ぜひ御検討をお願いしたい。

<事務局>

国も全国の包括支援センターの分析の促しが始まっているので、そうした動きと絡めていけたらと思う。

<委員>

上手く言えないが、アウトプットとかアウトカムとか、そういう視点でどういう風に（指標を）立てるか色々出ていると思うので、御検討いただければと思う。

<委員>

先ほどフレイル予防に「栄養・運動・社会参加」の三位一体と御説明いただいたが、社会参加で一つ提案があるが、避難所運営ゲーム、通称HUG（ハグ）と呼んでいるが、どういうものかということ、百人一首ぐらいの札があって読み手が札の内容を読み、避難所を模したA1サイズの図面の上に、「こういう人が避難してきました」などが書かれたその（内容の）カードを配置していくもの。風水害バージョンなど色々なバージョンがあるが、1チーム5～6人でやるもので、地域の防災もかねてとりいれていただければ繋がりも出来るしいいのではないかなと思う。ぜひ御検討をお願いしたい。

<事務局>

社会的フレイルとの絡みになると思うが、避難所生活では日ごろのつながりが大切であり、高齢者の生活不活発が大変心配される。フレイル対策というのは有事の際にも十分に活かせるというのは東大の先生とも話しているが、こういった場で御意見をいただいたので、認識を改めて持ちながら進めていきたいと思う。

<委員>

各包括支援センターの方々が精力的に活動されていることが分かった。

人材の育成という点で、このコロナ禍でなかなか研修に行けないとかということ、リモートを活用しながらがんばっているという報告があったと思うが、何か所かで、環境が整っていないために、そういったものに参加できなかったというような結果を報告している。出来れば、法人に委ねられている部分かなとは思いますが、スタッフの育成というのは本当に大事なことだと思うので、そういった環境面で差が出てしまうのはもったいないなという印象がある。環境面で出来るだけ整うように（市が）支援出来ればいいのかと思う。

あと、もう一点、MCIの機器でのチェックというところで、先ほどのフレイル（対策）と合わせて展開しているんだなというのが分かった。（実施）回数の一つの目安を作ってくれていると思うが、年間50回という設定が多々見受けられる。この50の設定は何なのかと思い、前年を見てみるとどこかでは70と書いてあったりした。機器等を展開して支援の普及を図るという意味で、出来るだけ使いましょうということなのか、それとも機器を使って予防を図っていこう、より広げていこうというニュアンスなのか、もっと数を増やしていこうというニュアンスなのか。毎年何回かやられている中でどう変わってきているのかというのを評価できるとよりよいのではと考える。

<事務局>

まず、環境整備だが、昨年度になるが、市の産業振興部で（オンライン）環境整備について要件が合えば補助しますという事業があって、包括支援センターへ周知している。ただ、利用したところはなかったように記憶している。

それと、認知機能評価機器のところだが、月に5回やっていただくと、年間で60回になる。市としてはそれ以上やっていただきたいというところではあるが、実際に認知機能評価をやっていく中で、職員が一人付いて行い、その出た結果によって次にどういったつなぎをしていくかというところがあるので、なかなか包括でもたくさんできるものでもない。市としては出来るだけ多くの方にやっていただいて、少しでも早く認知機能の低下に気付いていただき、早ければ早いほど、次へのつなぎとして、例えばコグニサイズをやっているサロンへ通っていただいたり、認知機能の低下の程度によっては受診を勧奨したりといったことが出来るので、多くの方にやっていただきたい。あと、どなたが検査を受けていただいたかというのは各包括支援センターで把握をしているので、継続してある一定期間たったらまた受けていただいて、その結果、改善しているのか、低下しているのか追跡はできるので、また次の手立てを考えていくということになる。

<委員>

各エリアで高齢者数が違うと思うので、それに応じて数が一緒というのはどうなのかなと思ったが、タブレットの数が限られているなど、（実施回数が同じとなる）要因はあるのかなと思う。実施を一つのきっかけにさせていただいて、（認知機能評価を）やられる方だけでなく、その周りにいる人のところまで広げていただくなど、色々な意味合いがあるのかなと思う。

<委員>

様式について提案だが、資料2-1の方針を見ると実施項目等との関連で、（今の様式でも）詳細を見ると、方針番号が入っているので分かるのですが、一目で展開が分かる、そういう資料が一枚あると、方針の項目と実施項目の関連が一目で分かると思う。もうひとつ、方針項目についても何らかの目標があるといいのかなと思う。

<事務局>

方針項目の目標については、以前お配りした高齢者福祉計画の中で主だったものについて、活動指標など目標の設定はしてある。ただ、市民の皆様が見る場合、これも見て、あれも見て、この計画書も見てという構造になっているので、体系的につかみにくい印象を与えてしまうのかも知れない。一枚でどういうふうに盛り込もうかということでは、悩ましいとこ

ろであるが、まずはちゃんと見てもらわないといけないというところがあるので、どこまで細かく見せられるか色々と考えていく。

< 委員 >

(計画書及び評価表に盛り込むのが難しいの) であれば、資料 2 - 1 の方針項目の右の方に実施項目を展開していけば、それだけでも見やすくなるのかな、全体像が一目で分かるのかなと思う。

< 事務局 >

検討する。

7 その他

< 事務局 >

市内の地域包括支援センターの職員に対する新型コロナウイルスのワクチン接種の状況をお話しさせていただく。福祉関係職員の優先接種枠というのを市の方で設け、それを活用して市内 13 ヶ所すべての地域包括支援センターにおいて接種を希望する職員に対して、7月15日本日現在において、一回目の接種を終えている状況。中にはすでに2回目接種を終えているところもあるが、体調不良等がなければ、今月中に希望するすべての方の接種が終わる予定。

次に、次回開催予定は11月18日(木)の午前中を予定している。

閉会

以 上